

【別冊資料】

平成30年度

教育に関する事務の管理及び執行
の状況の点検並びに評価結果報告書
(平成29年度対象)

平成30年8月

高石市教育委員会

【別冊目次】

高石市小中連携推進 StepⅢ	1
平成 29 年度高石市立小・中学校学力向上の取組	2
SIST（School Innovation Support Team）事業について	8

趣旨 …これまでの「小中連携事業」に基づき、《5年計画》で【5つの視点(ねらい)】を踏まえた【5つの実践】に取り組み、その実現に向けて小・中学校が連携して一体となって校区の子どもたちを育てることで、「教育ビジョン」がめざす「生きる力」の確実な定着を目指す。

9年間の教育目標＝めざす子ども像の実現

確かな学力の向上

基礎基本 思考力 判断力
表現力 理解力 学習意欲
学び方 学習習慣 情報活用力
等

生きる力の育成

豊かな人間性や社会性の育成
個性や能力の伸長
等

学習活動×ICT機器
つなげる活用

学
習
内
容
指
導
の
系
統
性

⑤H33

④H32

③H31

②H30

①H29

視

実

点

践

子
ど
も
理
解
の
貫
性

防災教育
食育
キャリア教育・夢先生
体力向上
人権教育

一貫性のある生徒指導

児童・生徒の交流

豊かな人間関係づくり

地域社会との連携

各教科
外国語・英語
総合的な学習
道徳
支援教育

指導方法の改善

教職員合同研修

カリキュラムづくり

授業交流

教職員の資質・指導力の向上

ICT(タブレット)機器を活用した授業・子どもが主体となる授業の構築

家庭・地域の教育力の向上

平成29年度 高石市立小・中学校 学力向上の取組

組織的な学力向上の取組の推進をめざして！



高石市教育委員会事務局
学校教育課

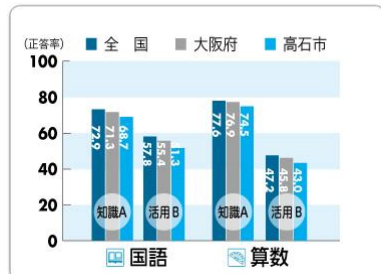
平成29年度高石市学力向上の取組

現状・課題

○平成28年度全国学力・学習状況調査において、

(小6)国語A・B、算数A・Bともに全国、大阪府平均を下回る。

←グラフ左

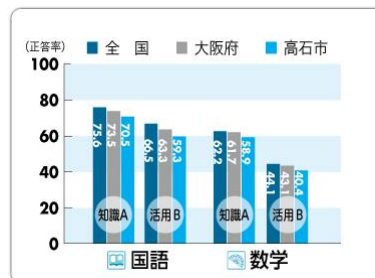


※特に記述するB問題において低学力層の割合が極端に多い。

(中3)国語A・B、数学A・B

ともに全国、大阪府平均を下回る。

→グラフ右



特に、昨年度から著しく下降している。

○思考力、判断力、表現力が十分に培われておらず、言語活動の充実が課題である。

○読解力、要約力、情報分析力、課題解決力等に課題が見られ、活用型の問題を苦手としている児童生徒が多い。

○学びに向かう力が身につけていない児童生徒が、少数だが数校の学校に見られる。

意欲を喚起する授業構想や家庭学習力の育成が課題である。

○平成27年度より、各校においてかなり授業改善が図られたが、今後も校内における組織的な研究や協議を推進していく必要が不可欠である。

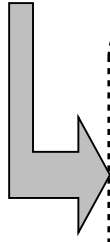
時代の急激かつ大きな変化とともに求められる学力の変化
→授業改善

高石市の統一した
「組織的な学力向上の取組」の必要性！

高石っ子の夢を育むための学力向上！

「組織的な学力向上の取組」

『高石っ子育みの授業スタンダード』7つのポイントを踏まえて



- 1 学びの基盤を支える学習規律づくり
○ 子どもを認め、生かす場面がある。
- 2 学習意欲を高める学習展開
○ 子どもの実態に即し、本時のねらいに迫る“めあて”を示している。
○ 本時の“めあて”に迫る子どもたちの主体的な活動がある。
○ 授業に見通しと振り返りがある。
- 3 学習内容を整理できる板書やノート指導
- 4 よさや、つまずきを発見する机間指導
○ 学習意欲を高めたり、理解させたり するための工夫がある。
- 5 学ぶ意欲を高める教室環境づくり
- 6 基礎・基本を確かなものにする朝の活動
- 7 家庭学習へのはたらきかけ

1 学級づくり・学習規律の確立 ◀◀◀ポイント1・5

(1) 学級開きの取組→生活規律・学習規律の確立

- 「まちがうことは学習権」の価値観の徹底→安心して発言のできる教室づくり
- あたたかな関わり合い→安心して学ぶことのできる学級づくり

(2) 社会性測定尺度の活用

- 児童生徒に対してより良い成長を促す指導を行い積極的な生徒指導を推進

2 授業改善 ◀◀◀ポイント2・3・4

(1) 「高石市授業力向上プロジェクト2017」2015年度からの取組継続として

- PJ1→【授業改善への挑戦】
- PJ2→【SIST & TASTの活用】
- PJ3→【先進校の取組から学ぶ】
- PJ4→【学びに向かう集団づくり】
- PJ5→【学力向上に関連する小中連携研修会】

*PJ…プロジェクト

(2) 「大阪の授業スタンダード」をベースとした3つの徹底化

徹底① 子ども主体の授業づくり

- 「出会う」「結びつける」「向き合う」「つなげる」「振り返る」の5段階を1時間の授業に明確に位置づける

徹底② 授業におけるユニバーサルデザインの構築

- すべての子どもが楽しく「わかる・できる」ことをめざして

徹底③ さまざまな教育活動を通じて学習集団を育てる

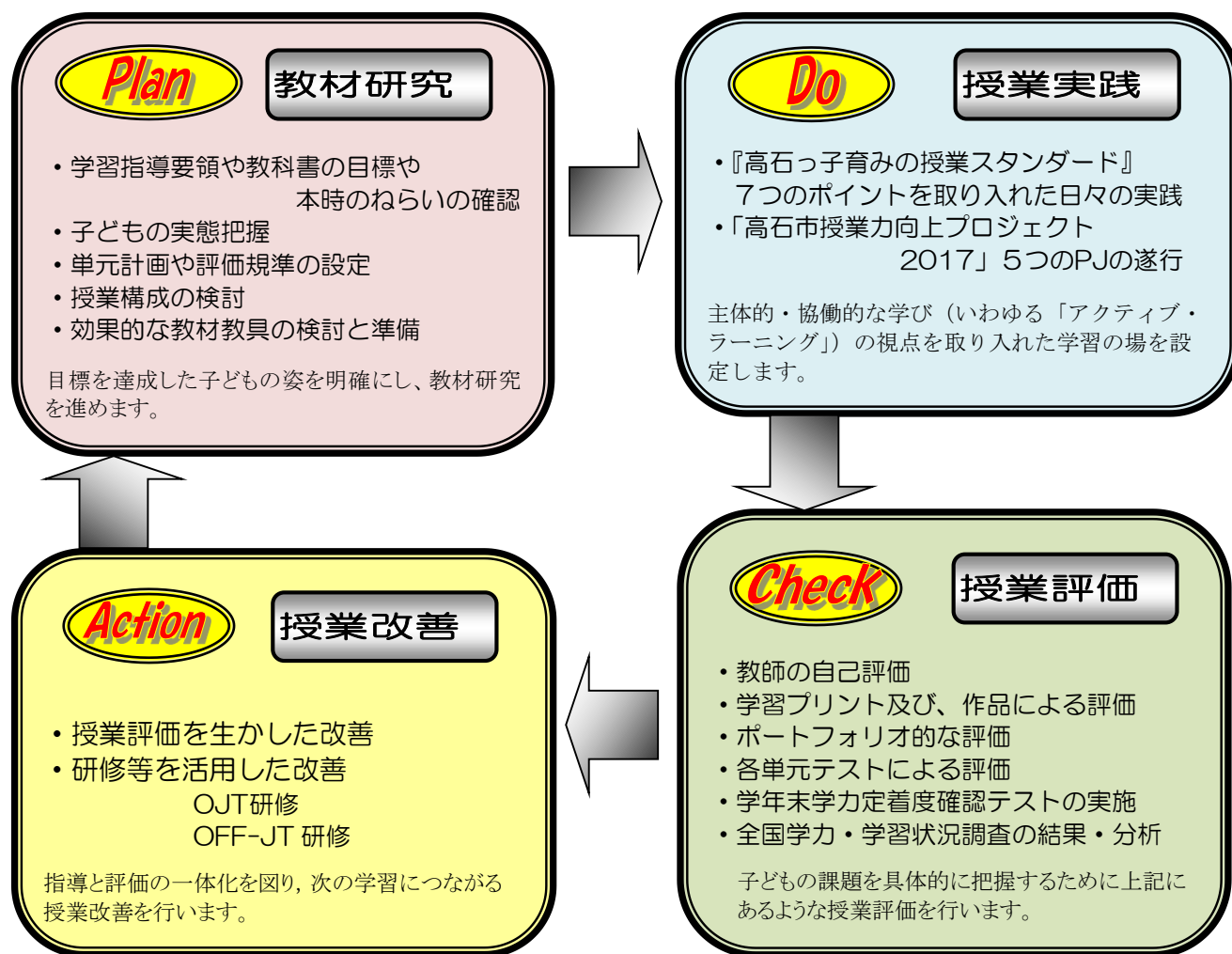
- 多様な個性が輝き、互いを尊重し、成長しあえるように。「生徒指導の3機能」を意識した授業を構築



- ①自己決定の場を与える
- ②自己存在感を与える
- ③共感的人間関係を育む

(3) 授業改善PDCAサイクルの確立

○PDCAサイクルを意識し、アクティブ・ラーニングの視点を加え、継続した授業改善に努める。



3 補充学習（基礎基本の定着・弱点補強） ◀◀ポイント4・6・7

(1) 「つまずきを次年度に持ち越さない補充学習」の取組

- 「日々の授業」と連動させた基礎基本の定着・弱点補強の取組
- 「全国学力・学習状況調査問題」を活用した授業の実施 ➡ 3回以上

(2) 基礎基本の定着をはかる家庭学習の取組

- 授業と連動した課題
- データベース等の活用

(3) 放課後や長期休業中を活用した補充学習の取組

- 夏休み学力向上Step Up の教室を小・中ともに5日間以上実施 ➡ 内容の工夫充実
- 外部人材・講師の活用 ➡ ・「夏の学習クラブ」「春の学習クラブ」
・「放課後学習クラブ」（元気広場などの活用）

「高石市授業力向上プロジェクト2017」

PJ1→【授業改善への挑戦】

- ・「大阪の授業スタンダード」がめざす3つのポイントに基づいた授業づくりをすすめる。
①子どもを大切にする ②子どもの力を信じる ③子どもの力を引き出す
 - ・1時間の授業構成において、
子どもの学びの質の向上につながる「大阪の授業スタンダード」の5つの段階の
効果的な設定ができるよう、教員の教材研究力を向上させる。
 - ・学習指導要領改訂の視点(アクティブ・ラーニング)を踏まえての授業改善に取り組む。
 - ①習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置きつつ、
深い学びの過程が実現できているか。
 - ②他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているか。
 - ③子どもたちが見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、
主体的な学びの過程が実現できているか。
- ① **出合う** (「めあて」を本時の活動、子どもに付けさせたい力に沿ったもの、
子どもが向き合う明確な目標として示す)
 - ② **結び付ける** (本時の学びに活かすことにつながる既習内容の確認場面とする)
 - ③ **向き合う** (子どもが解決したいと思える課題設定、問題とする)
 - ④ **つなげる** (「発表、班学習、ペア学習」等を必要感のある活動として設定する)
 - ⑤ **振り返る** (子どもが本時の学びを自己評価できるもの、
指導者が子どもの本時の学びを見とれるものとして「振り返り」を実施する)

PJ2→【SIST & TASTの活用】

【SIST】とは？ <School Innovation Support Team>

- ・子どもたちが主体的・意欲的に活動できる「授業づくり」を推進していくために、指導主事が継続して、学校を支援していく。

(各学年の授業支援→

教員一人ひとりの授業スキルを向上

→学校体制で取り組む授業改善)

→指導主事による示範授業、日々の授業に対する指導助言を通して、「大阪の授業スタンダード」に沿った授業改善を図る。

【TAST】とは？ <Tablet Activity Study Team>

- ・各校より、児童生徒のため効果的な授業デザインができるビジョンをもち、「タブレットPCの操作方法」「授業でのタブレットPC活用方法」「タブレットPCを活用した協働学習」等について、学びたいという教員を募り、学校・教委・企業がチームとなり、研究を推進していく。

(操作方法を学ぶ・活用事例から学び合う

→教員のタブレットPC活用意欲向上

→日々の授業におけるタブレットPCの効果的な活用)

PJ3→【先進校の取組から学ぶ】

- ・他市町村、他校における先進的な実践を参考にし、高石市の子どもたちの学力向上、教員の授業力向上に向けた取組みに活かす機会を設定する。



各校で取り組んでいる実践、好事例については、市で実施する担当者会において交流、共有する機会を設定し、普及を図る。

(学力向上を目標とした校内体制で取り組んでいる実践・校内研究の推進・ICT 機器「タブレット端末等」を活用した授業実践・成長を促す生徒指導の実践 等)

PJ4→【学びに向かう集団づくり】

- ・「生徒指導の3機能」を生かした授業づくりを推進する。
→「すべての子どもに【出番】を与える」
 - ①自己決定の場を与える
(自ら課題を見つけ、それを追究し、自ら考え、判断し、表現する授業)
 - ②自己存在感を与える
(子ども一人ひとりに学ぶ楽しさや成就感を味わわせることができる授業)
 - ③共感的人間関係を育む
(お互いに認め合い、学び合い、高め合うことができる授業)



一人ひとりの子どもが、各教科の授業において、
自分の考え方、感じ方をもって（自己決定）、それをみんなの前に示す（自己存在感）。
そして、子どもは互いに相手を受容していく（共感的な人間関係）。
このような日々の授業実践を積み重ね、「学びに向かう集団づくり」につなげる。



PJ5→【学力向上に関連する小中連携研修会】

- ・平成29年度より、小中連携の推進はStepⅢ（トリプル5…Go! Go! Go! プラザⅤ外）へ。
- ・小中学校でめざす子ども像を共有し、
「教育目標の一貫性と学習目標の設定」を踏まえて子どもたちの「生きる力」の育成を図る。
- ・教育課程の編成や指導形態などの工夫・改善を図り、小中学校で「学習指導の継続性」・「学習内容の系統性」を踏まえて「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成をめざす。



そのために、小中学校の教員が参画する研修機会を設定し、
各中学校区が共通の課題や目標を見出し、
課題解決や目標達成をめざした具体的な取組みを推進していけるよう支援する。

SIST (School Innovation Support Team) 事業について

子どもたちが主体的・意欲的に活動できる「授業づくり」を推進していくために、指導主事が継続して、学校を支援していく。

主に、下記のことを実施していく。

- ・授業改善を学校全体で行う基盤づくり
- ・全教員による「子どもたちが主体的に活動する授業づくり」
- ・組織を動かす若手・中堅教員の育成
- ・外部講師による取組みの検証



SIST

コーディネーター（指導主事）

各小中学校の授業改善の課題を分析し、支援方策を考え、指導主事・学力向上支援員に支援方策を指示

情報共有・指導方策確認

情報提供・連携

学力向上担当 指導主事

各小中学校の日々の授業改善に向けて、教職員に対して、指導助言を行う。

連携

学力向上支援員

各小中学校の校内研究体制について、管理職及び教職員に対して、指導助言を行う。

学力向上担当者会議

学校

派遣（継続的支援）

【具体的方策】

A 各学年の授業支援→教員一人ひとりの授業スキルを向上

大阪の授業スタンダードの5観点に基づき、どのように1時間の授業を組み立てていくかを指導・助言を行う。

学習規律（チャイム着席・聞く態度・話す態度等）の定着にむけての指導・助言を行う。

- ① 指導主事による模擬授業の実施。
- ② 学年に合わせて単元を通じた授業づくりの指導・助言（教材研究、授業参観から見えてくる課題等、随時指導）

B 大阪府教育センターや大学教授等外部講師と連携した研究授業支援→学校全体の校内研究の活性化

外部機関と連携し、各学校が行っている校内研究に対して、検証し取組みを効果的に進めていく。

外部講師（府教センター・大学等）や市指導主事が、

- ① 指導案検討会
- ② 事前授業
- ③ 研究授業・研究討議 において、指導・助言を行う。

児童生徒の学習意欲や学力の向上・教員の指導力向上

児童生徒が「分かる」「楽しい」「できる」感じられる授業づくり

児童生徒の学力向上